農作物技術情報　第７号の要約

令和５年　９月２８日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	**技術対策** ほとんどの圃場で成熟期を迎えており、速やかに刈り取る。 倒伏した圃場では、コンバイン等の作業速度を落として作業する。 倒伏した部分や登熟が遅れている部分は刈分けを行い、品質の均質化に努める。 日没が早まる時期なので、作業は計画的に進め、安全な農作業を心掛ける。
畑作物	**生育概況**：大豆は生育、子実肥大ともに良好だが、黄化・落葉は昨年よりやや遅れている。 **技術対策** **大豆**：成熟状況の確認、雑草や青立ち株の抜き取り、排水の徹底など、収穫作業に向けた準備を進める。 **小麦**：越冬前に十分な生育量が確保できるよう、適期播種を行う。圃場条件が整わない場合は無理な播種作業を行わず、適期を逃した場合は、播種量を増やして対応する。
野菜	**生育概況**：各品目とも終盤を迎えている。露地きゅうりは草勢低下や病害による枯れ上りなどで収穫終了となる圃場が増えている。トマトは摘芯が終了し、裂果が増えている。ピーマンは生育は良好だが赤果の発生が多い。雨よけほうれんそうは一部で高温による停滞が見られるが、回復傾向となっている。キャベツは概ね順調な生育、レタスは一部で高温による不結球や抽苔が発生している。 **技術対策** **果菜類【施設】**：気象条件に応じたハウスの適切な温湿度管理に努めるとともに、障害果の発生防止対策を行う。灰色かび病等の病害の予防を徹底する。 **果菜類【露地】**：きゅうりは草勢維持のための管理と病葉や古葉などの摘葉を中心に行う。栽培終了後は次年度へ向けた準備として資材消毒を行うほか、萎れが見られたほ場ではキュウリホモプシス根腐病の残さ診断を積極的に行う。 **葉茎菜類**：雨よけほうれんそうは年内収穫用にもう１作播種し、適切な温度管理と病害虫防除を徹底する。ねぎは計画的な管理による適期収穫を行う。キャベツ・レタスは病害で収穫できなかった株や使い終わったマルチを適切に処理する。 **冬春野菜**：寒じめほうれんそうは品種特性に合わせて適期に播種し、温度管理を徹底する。促成アスパラガスは低温遭遇時間（５℃以下の積算遭遇時間 90 時間以上）を目安に掘り取り時期を決定する。
花き	**生育概況**：りんどうの晩生品種や小ぎくの９月咲き品種では開花の遅れがみられたが、概ね彼岸需要期に出荷となった。病害虫については、りんどうでは黒斑病、ハダニ類、オオタバコガの発生が多い。小ぎくではハダニ類、オオタバコガ、アブラムシ類の発生が多くなっている。 **技術対策** **りんどう**：花腐菌核病、黒斑病やアブラムシ類等の病害虫防除を徹底する。 **小ぎく**：収穫後管理を徹底し、健全な伏せ込み苗・株を確保する。
果樹	**生育概況**：りんごの果実生育（横径）は、県平均で平年並。中生種の「ジョナゴールド」の熟度の進みはやや早い。 **技術対策** **りんご**：高温の影響により果実の熟度は果肉先行の可能性がある。着色にとらわれず食味を重視し、すぐりもぎを徹底して採り遅れがないようにする。10 月は台風シーズンなので、気象情報に注意し、事前事後対策の徹底を図る。
畜産	**技術対策** **飼料用とうもろこし**：各地域で収穫が始まっている。刈り遅れないよう、収穫を速やかに進める。 **牧草**：刈り取り危険帯の時期が近づいている。この時期は収穫や施肥を避ける。 **家畜（乳牛）**：牧草の品質を確認し、秋に増える牛の疾病に注意する。

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」でご覧ください。https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/ （「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

〇農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

〇9月15日～11月15日秋の農作業安全月間「農作業　慣れと油断が　事故のもと」

次号は令和5年 10 月 26 日（木）発行の予定です